

・選んだ記事の紹介をし合うことで、その人の趣味や興味のあることが伝わってきた。同じ記事でも感じ方や選んだ理由も違うことがわかり、会話を膨らますことができ、対話的な活動となっていた。一つの記事がコミュニケーションのツールになることが体験できた。

・「記事に見出しをつけよう」では、文字数制限があることで、文の要約を捉える学習ができると感じた。また、人に読んでもらえる、興味を引き出すタイトルをつけることは、発表資料を作成するときに非常に重要なスキルとなるので、授業に組み入れていきたいと思った。

・低学年では、1枚の写真から読み取れる内容を整理し、みんなでタイトルを考えるなど、楽しく参加できそうな活動のイメージができた。

・新聞の記事から言葉を見つける活動はゲーム感覚で楽しめる。一生懸命文字を目で追うので、勉強が苦手な子でも取り組みやすい。

・新聞もインターネットの記事も「本当にあってるかな？」と考えながら読むこと、本・雑誌・記事・見聞きしたことを総合して、その記事をどう読み解くかがこれからの子どもたちに求められている力だと感じる。ひとつの記事を信じ込むのではなく、いろいろな視点から考えられるようになってほしい。

・新聞は読んだ後にもたくさん活用されている。自分の家で、どんなときに「新聞もってきて」と保護者に言われるか、どんな時に使うかということを含めて出し合うと楽しいなと思いました。「新聞を読む」と聞くと、とっても堅苦しくて難しいという印象ですが、野菜を包む、机の汚れ防止、書写の作品を挟む、生活の中で「あると意外と便利な新聞」ととらえられると、新聞に対する気持ちのハードルが下がるのではないかなと思います。

・私が小学生のとき、新聞は「テレビ欄と4コマ漫画」を見るためのものでした。学年が上がるにつれて、テレビ番組紹介、スポーツ欄、社会面と触れ合う記事が広がっていきましたが、いまだに経済欄は苦手です。父親が毎朝欠かさず読んでいる姿を見て育ちました。「どうしてお父さんがたたくとぺたんこになるの？」と聞いては、ぐちゃぐちゃになっている新聞のなおし方を教えてもらいました。時々、新聞記事に文句を言っていたことも含めて思い出になっています。

今は、自宅で新聞をとらない家庭も増えていますが、インターネットであふれ出すさまざまな記事を取捨選択することの大切さを学ぶ必要があると感じます。まずは、新聞の読み比べをして、いろいろと考える機会を作るのはとてもいいなと思います。

・各学年に応じた新聞学習の活用の方法を教えてください、とても有意義な機会となった。幼稚園や低学年は、文字を使った学習でなくても、新聞を使って何かを作ることから始めるのは、興味をもつきっかけになって良いと感じた。

・実際にワークショップを経験させてもらう中で、新聞記事の活用の仕方や楽しみ方などが具体的に分かり、子どもへの指導に大いに生かせると感じた。